「牛」詩碑
（安城公園「文学の散歩道」内）

「百姓家」詩碑
（新田小学校中庭）

「ででむし」詩碑
（安城高校中庭）

その4

# 新美南吉の碑めぐり

桜町小学校の正門に足を一歩踏み入れ、右手を望むと、花木の生い茂った庭園の中でじっとこちらを見ながらしゃがんでいる小さなきつねがいます。これが、児童文学作家新美南吉の代表作『ごんぎつね』に登場する、主人公「ごん」の石像です。

この庭園は、平成5年に南吉の生誕80年を記念して、戦前教べんをとっていた安城高等女学校（現在の安城高校）が存在したこの桜町小学校の地に作られました。

わたしは、その女学校で実際に英語と作文を教えていただきました。とてもきめが細かくやさしい先生で、作文の授業ではいつも、「技巧的でなく、見たもの、感じたものを素直に、ありのままに表現しなさい」と教えられました。今、振り返ってみると、人間や自然を深く観察することを重んじていたその姿勢は、後に世間に知られることになる数々の名作にそのまま反映されているように思います。先生のやさしくて大きな赤い字で、添削していただいた作文は、わたしにとって大変貴重なものとなり、今でも大切にしまってあります。

市内にはほかにも、新美南吉ゆかりの地として、作品にまつわる記念碑がいくつか建てられており、全国から数々の人が見学に訪れています。

さて、今、こうして、小学校の片隅にじっとしゃがんでいる「ごん」は、はたして、いたずらをしようとしているのでしょうか、それともくりやまつたけを差し入れようとしているのでしょうか。

今月の案内人
朝日町　中村とめ子さん